



2014年10月期 決算説明資料

2014年12月11日(木)
株式会社オハラ(証券コード:5218)

- ◆ 本資料は情報の提供を目的としており、本資料による何らかの行動を勧誘するものではありません。本資料(計画を含む)は、現時点で入手可能な信頼できる情報に基づいて当社が作成したものでありますが、リスクや不確実性を含んでおり、当社はその正確性・完全性に関する責任を負いません。
- ◆ ご利用に際しては、ご自身の判断にてお願いします。本資料に記載されている見通しや目標数値等に全面的に依存して投資判断を下すことによって生じ得るいかなる損失に関しても、当社は責任を負いません。
- ◆ この資料の著作権は株式会社オハラに帰属します。いかなる理由によっても、当社に許可無く資料を複製・配布することを禁じます。

◆ **2014年10月期 決算の概況** **P03～09**

◆ **2015年10月期 業績見通し** **P10～18**



2014年10月期 決算の概況

業績のポイント

<事業環境>

- ◆ デジタルカメラ市場は、コンパクト、レンズ交換式とも需要減少が続く
- ◆ 露光装置市場は、半導体、液晶向けともに堅調

<当社業績>

- ◆ 光学ガラスは、コスト優位性ある新製品を提案するも、数量減が続く
- ◆ 特殊ガラスは、売上堅調もミックス変化で収益性低下

<管理体制の変更(14/10期首より)>

- ◆ 子会社決算期の統一に伴い、子会社の9-10月業績を1Qに取り込み
- ◆ セグメント損益の測定方法変更(過年度セグメント損益を遡及修正)

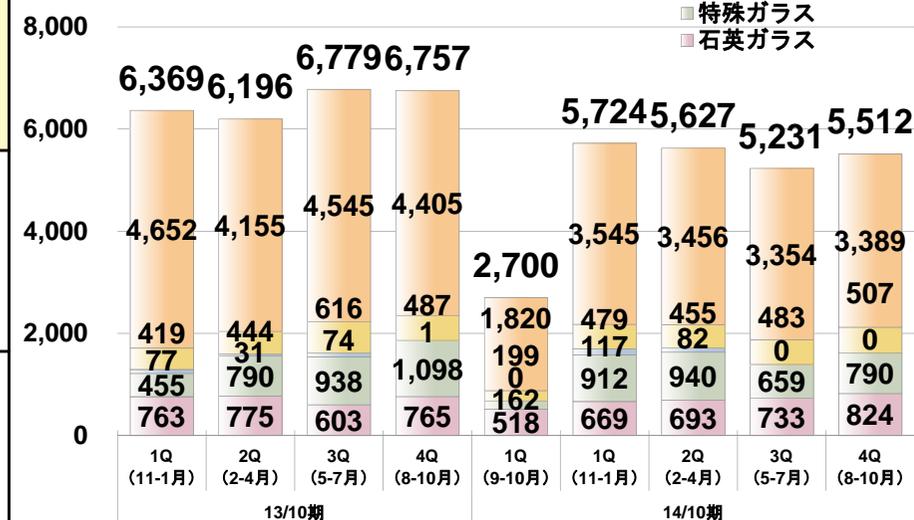
業績サマリー

(単位: 百万円、%)

	13/10期 通期 (11-10月) ①	14/10期 1Q (9-10月) ②	14/10期 通期 (11-10月) ③	増減 (③対①)
売上高	26,103	2,700	22,096	△4,006 △15.3%
営業利益	△674	211	△321	353
[営業利益率]	△2.6%	7.8%	△1.5%	—
経常利益	765	343	151	△614
[経常利益率]	2.9%	12.7%	0.7%	△80.3%
純利益	△4,005	38	△21	3,983
[純利益率]	△15.3%	1.4%	△0.1%	—
為替レート 円/1USD 円/1EUR	期中平均 94.40 124.42	期中平均 102.53 138.20		

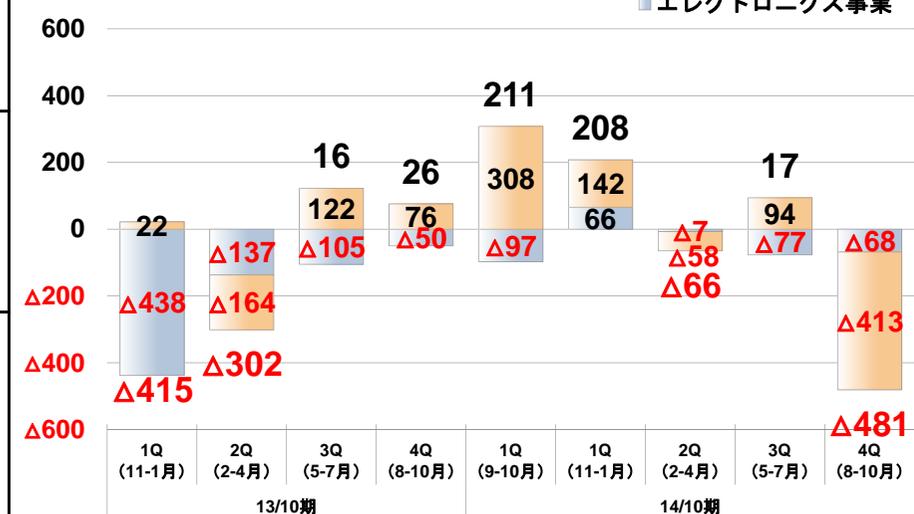
<売上高四半期推移>

(単位: 百万円)



<営業利益四半期推移>

(単位: 百万円)

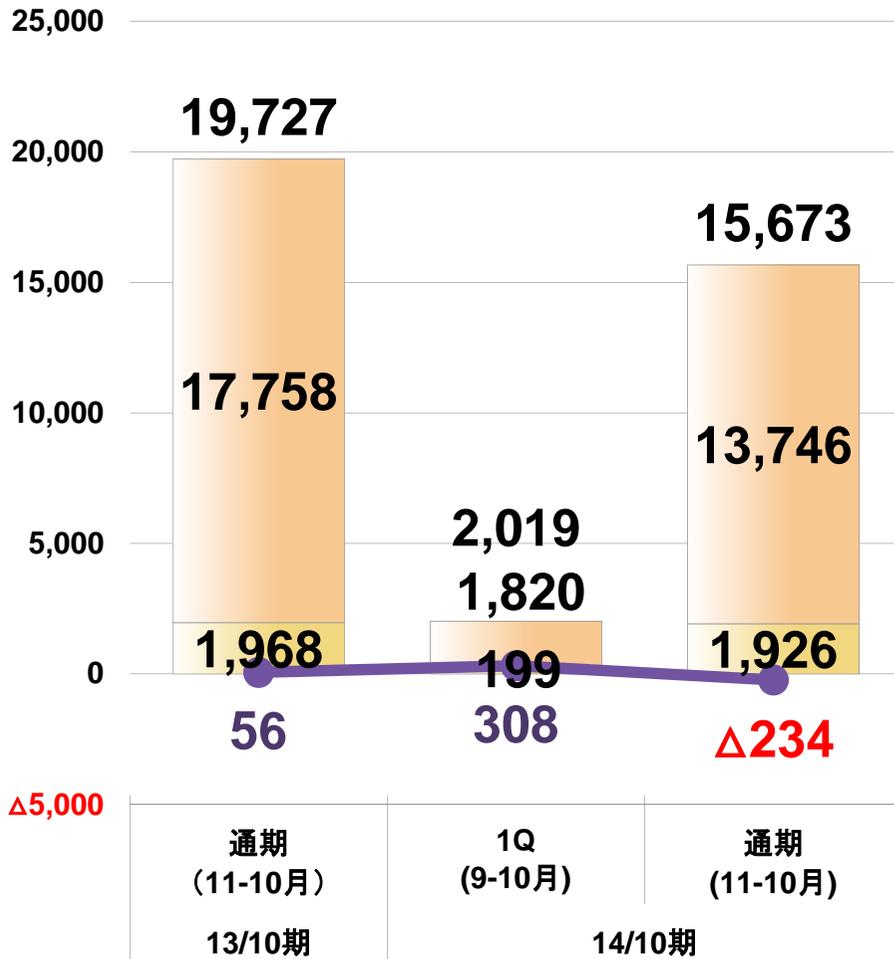


光事業

<通期対比>

(単位:百万円)

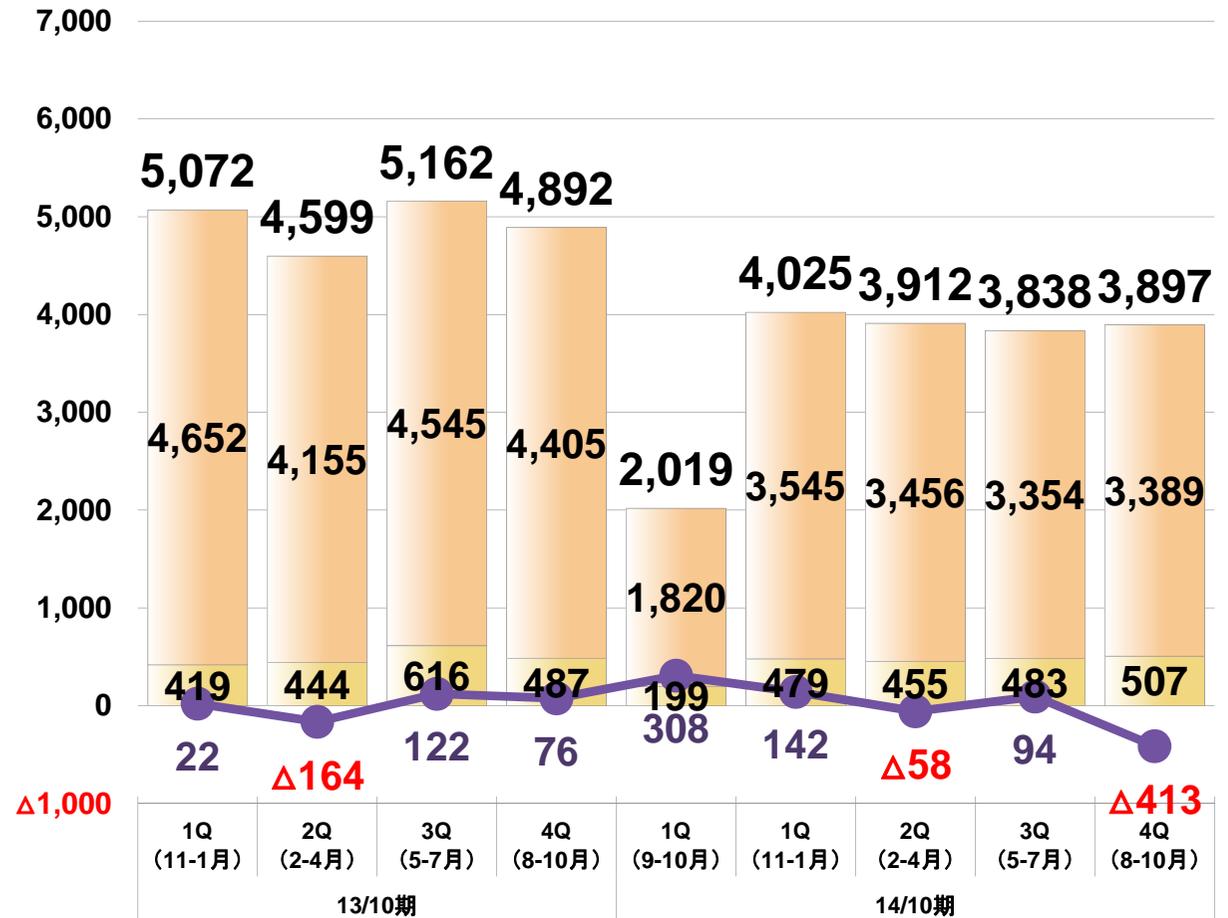
- 光学プレス品売上高
- 光学ブロック品売上高
- 営業利益



<四半期推移>

(単位:百万円)

- 光学プレス品売上高
- 光学ブロック品売上高
- 営業利益

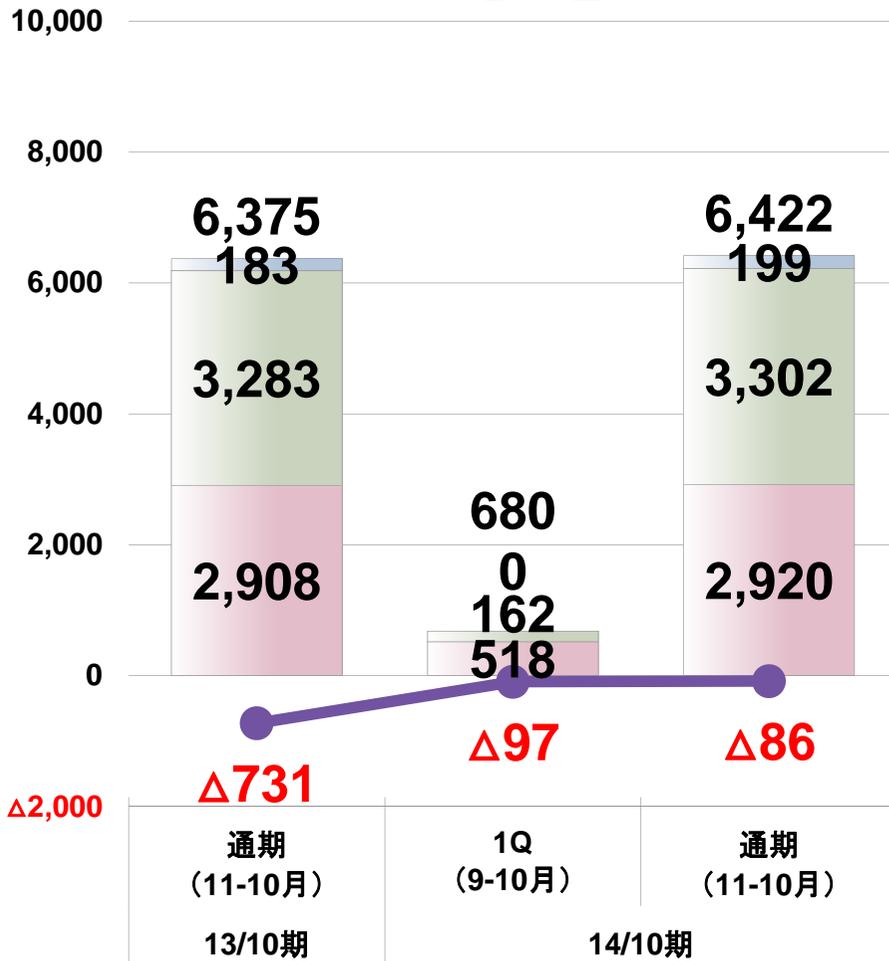


エレクトロニクス事業

<通期対比>

(単位:百万円)

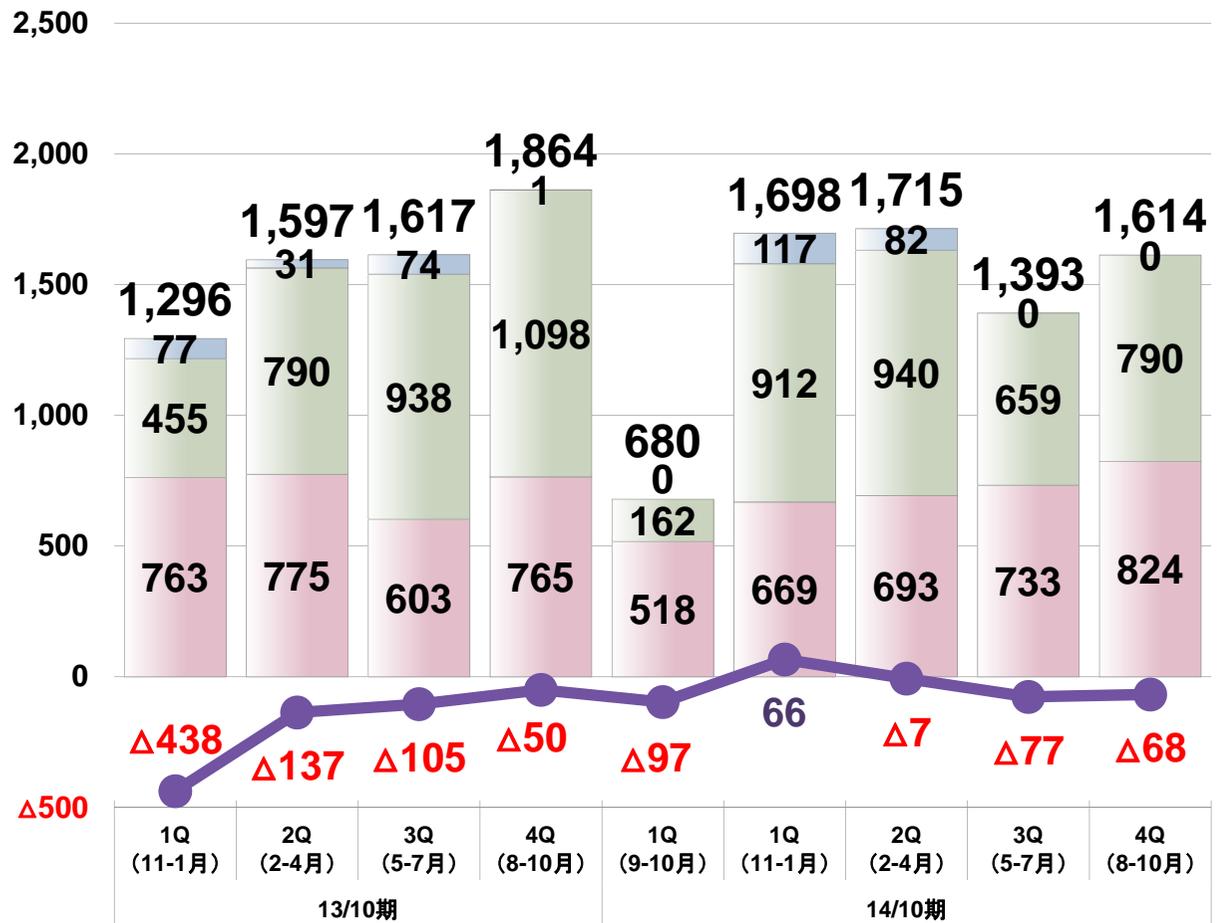
- HD用ガラス基板材売上高
- 特殊ガラス売上高
- 石英ガラス売上高
- 営業利益



<四半期推移>

(単位:百万円)

- HD用ガラス基板材売上高
- 特殊ガラス売上高
- 石英ガラス売上高
- 営業利益



キャッシュ・フロー



<有利子負債>



(単位:百万円)

営業CF増減主要因

税金等調整前純利益	779
減価償却費	1,718
売上債権の増減額	1,509
たな卸資産の増減額	1,581
有形固定資産売却益	△828

投資CF増減主要因

固定資産の取得	△1,235
固定資産の売却	1,837

財務CF増減主要因

借入金の返済	△1,195
配当金	△243



2015年10月期 業績見通し

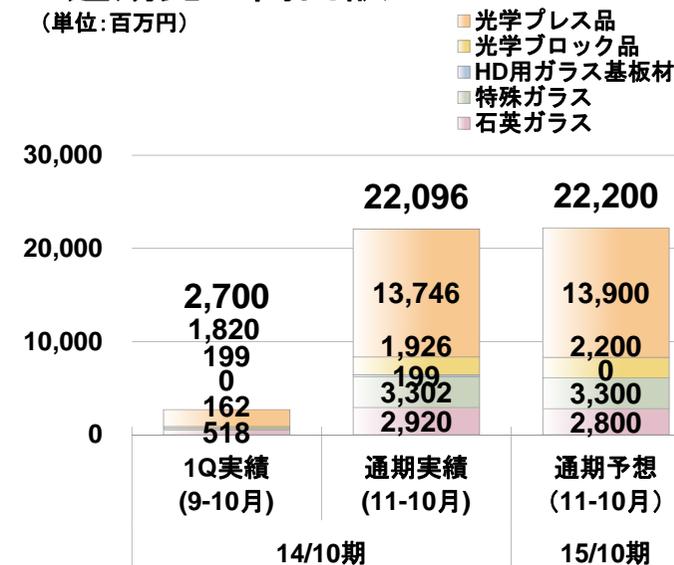
見通しサマリー

(単位:百万円、%)

	14/10期 1Q実績 (9-10月) ①	14/10期 通期実績 (11-10月) ②	15/10期 通期予想 (11-10月) ③	増減 (③対②)	14/10期 通期実績 (①+②)
売上高	2,700	22,096	22,200	103 0.5%	24,797
営業利益	211	△321	50	371	△110
[営業利益率]	7.8%	△1.5%	0.2%	—	△0.4%
経常利益	343	151	190	38	494
[経常利益率]	12.7%	0.7%	0.9%	25.8%	2.0%
純利益	38	△21	0	21	17
[純利益率]	1.4%	△0.1%	0.0%	—	0.1%
為替レート 円／1USD 円／1EUR		期中平均 102.53 138.20	期中平均 110.00 135.00		

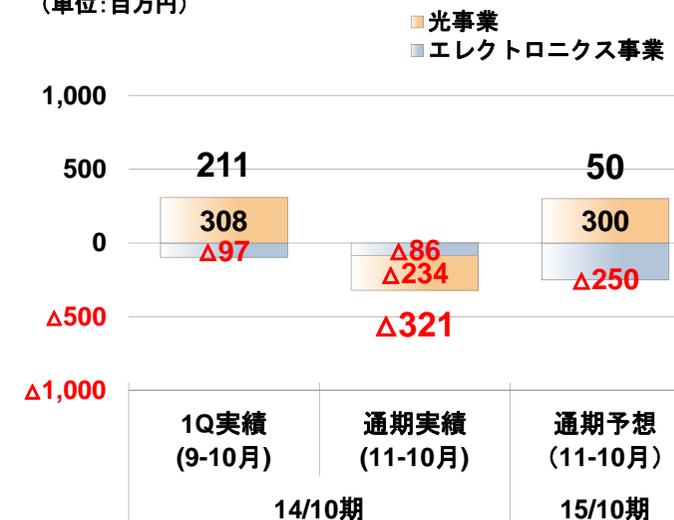
<通期売上高内訳>

(単位:百万円)



<通期営業利益内訳>

(単位:百万円)



光事業見通しのポイント

<事業環境>

- ◆ デジカメは、コンパクトの縮小が続く一方、レンズ交換式は回復が見込めず前年比横ばい
- ◆ 監視カメラ需要拡大、ネットワークカメラでは解像度も向上
- ◆ 自動車の電装化進展により、車載カメラの需要伸長

<当社状況>

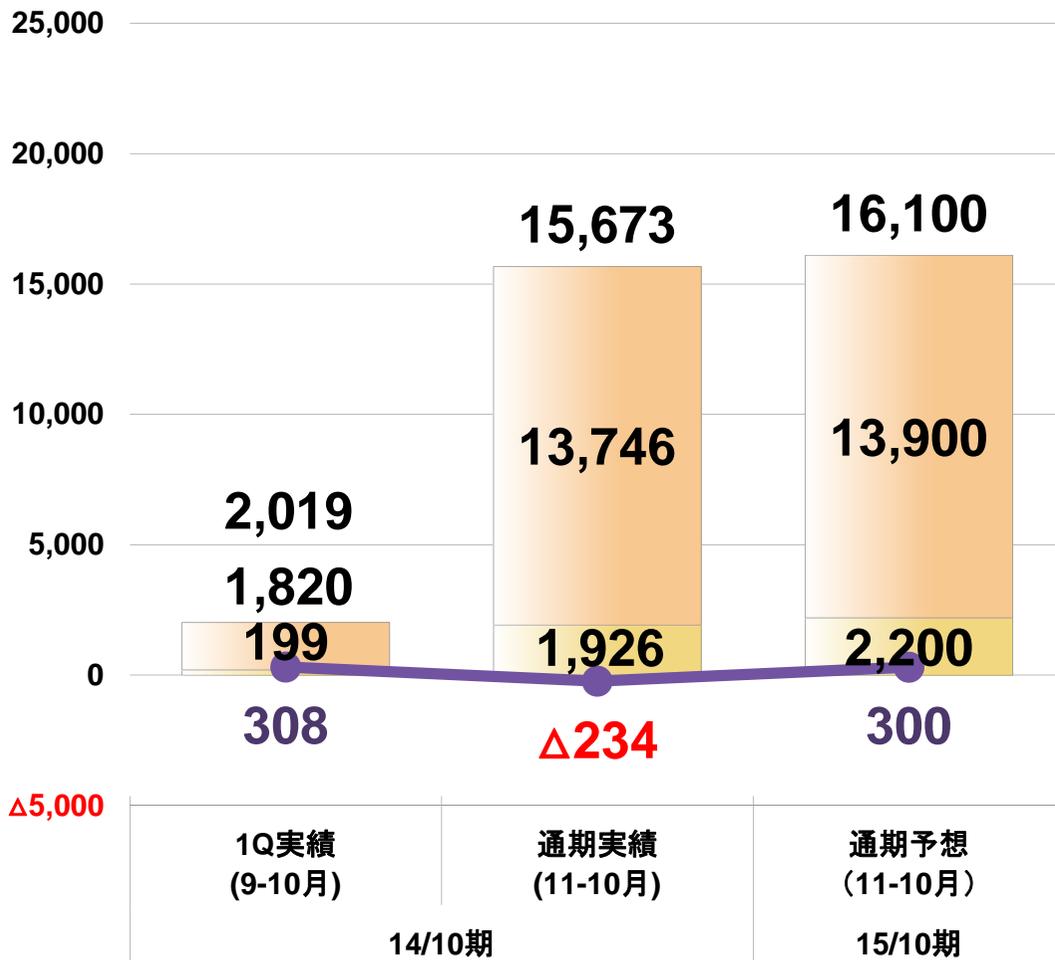
- ◆ 光学ガラスは、高品質品と普及品の2極化が進む。生産拠点の3極化推進で、双方の最適化を目指す

光事業見通し

<通期対比>

(単位:百万円)

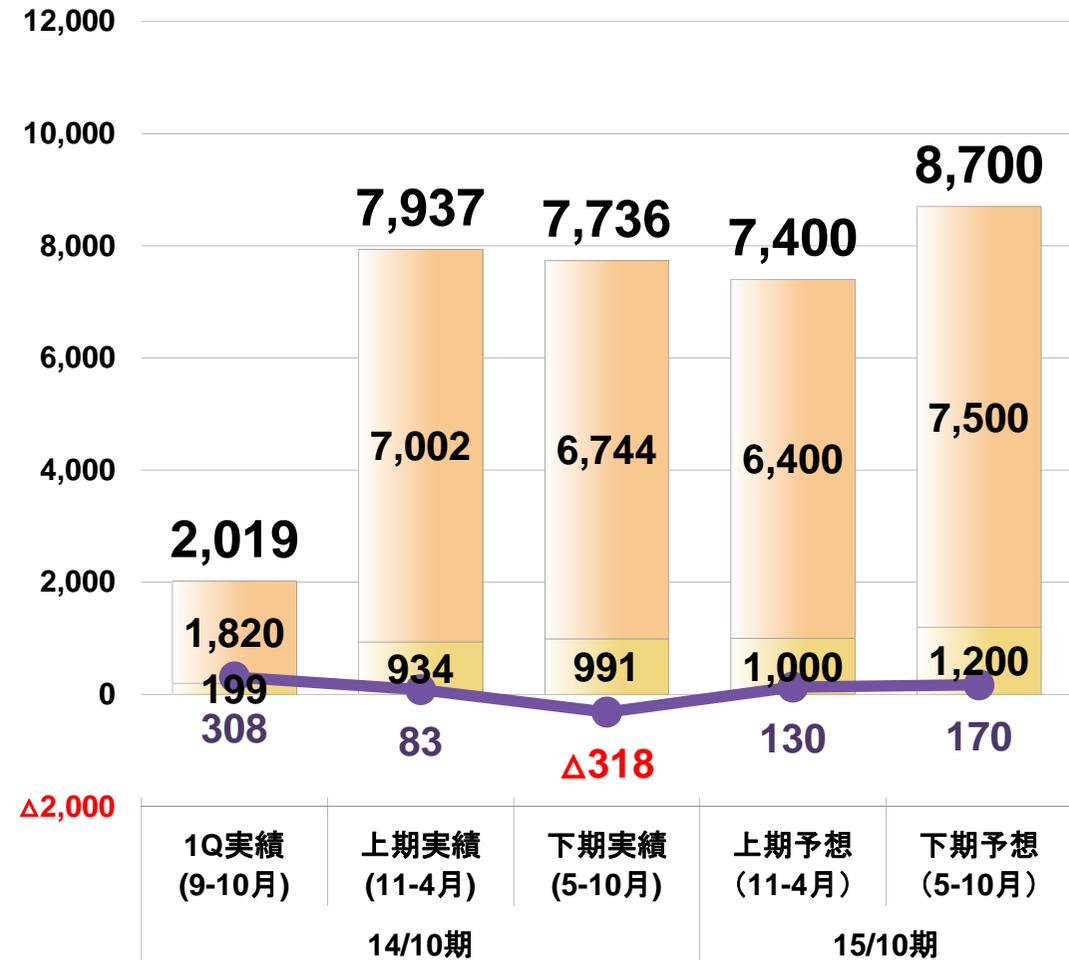
- 光学プレス品売上高
- 光学ブロック品売上高
- 営業利益



<半期対比>

(単位:百万円)

- 光学プレス品売上高
- 光学ブロック品売上高
- 営業利益



<事業環境>

- ◆ 半導体需要は堅調、液晶パネルも中小型の需要は旺盛
- ◆ 大型天体望遠鏡など、宇宙・天文関連産業は拡大

<当社状況>

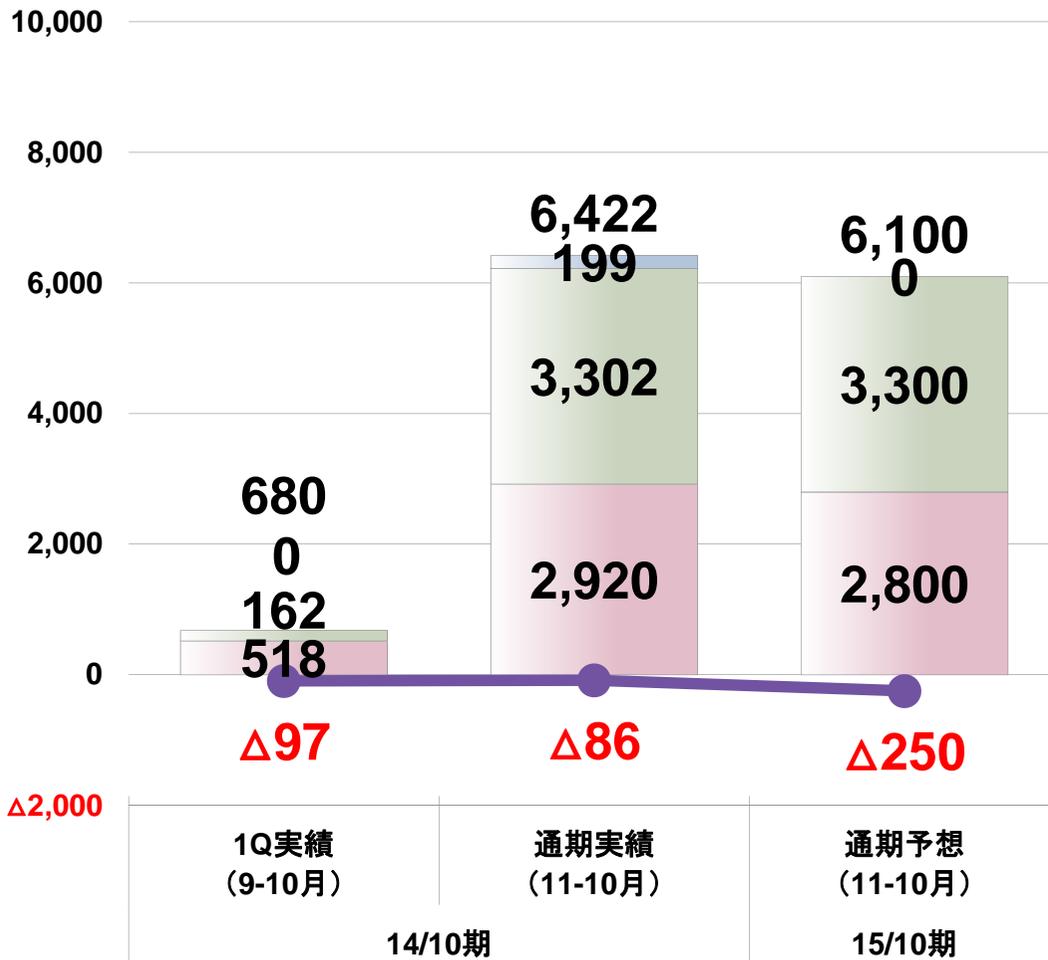
- ◆ 特殊ガラスは、露光装置向け製品の安定需要を確保、新製品開発、設備増強で需要拡大への布石を打つ
- ◆ 石英ガラスは、半導体フォトマスク用素材の販路確立、原価低減を徹底し、収益性の向上を図る

エレクトロニクス事業見通し

<通期対比>

(単位:百万円)

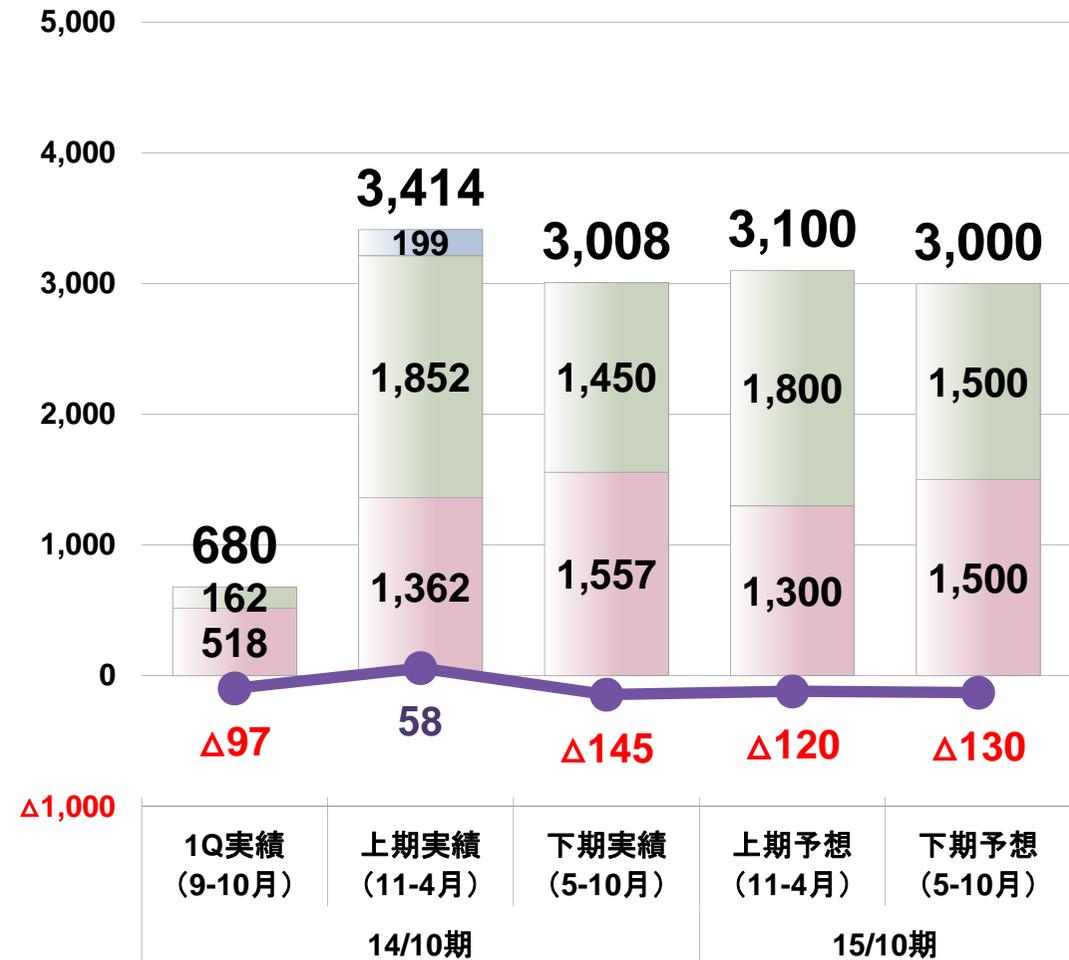
- HD用ガラス基板材売上高
- 特殊ガラス売上高
- 石英ガラス売上高
- 営業利益



<半期対比>

(単位:百万円)

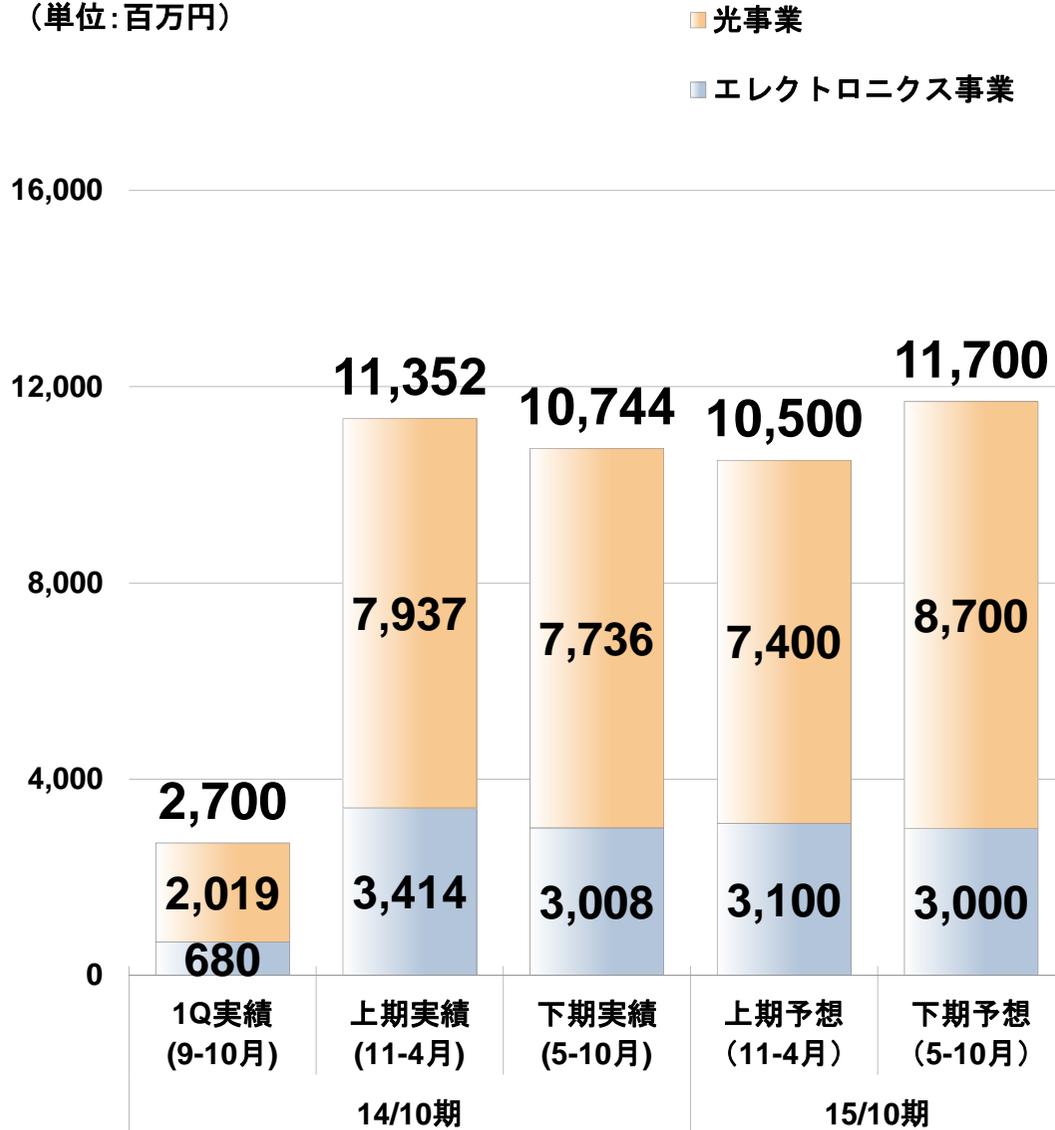
- HD用ガラス基板材売上高
- 特殊ガラス売上高
- 石英ガラス売上高
- 営業利益



見通し数値まとめ

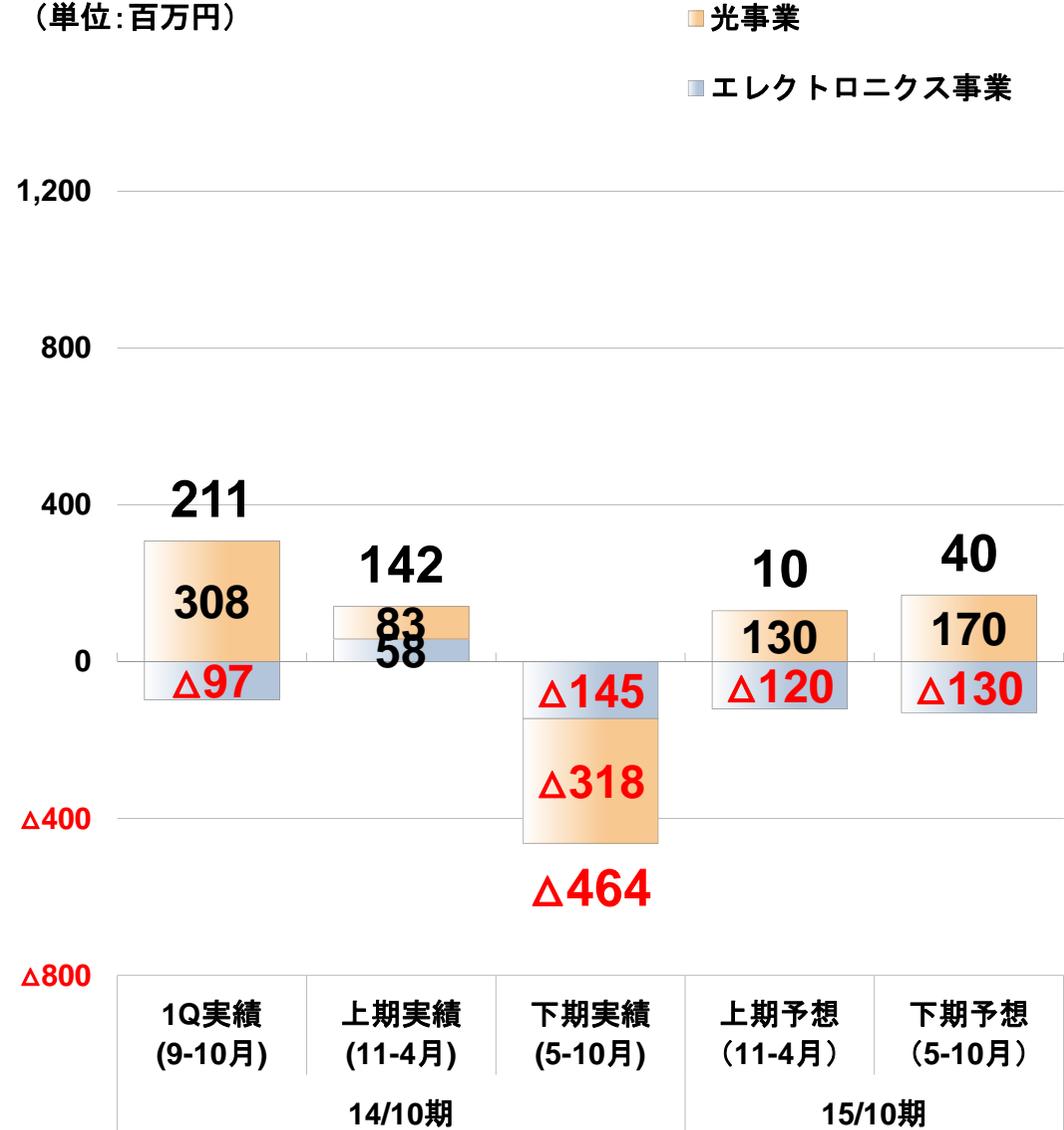
売上高

(単位:百万円)



営業利益

(単位:百万円)

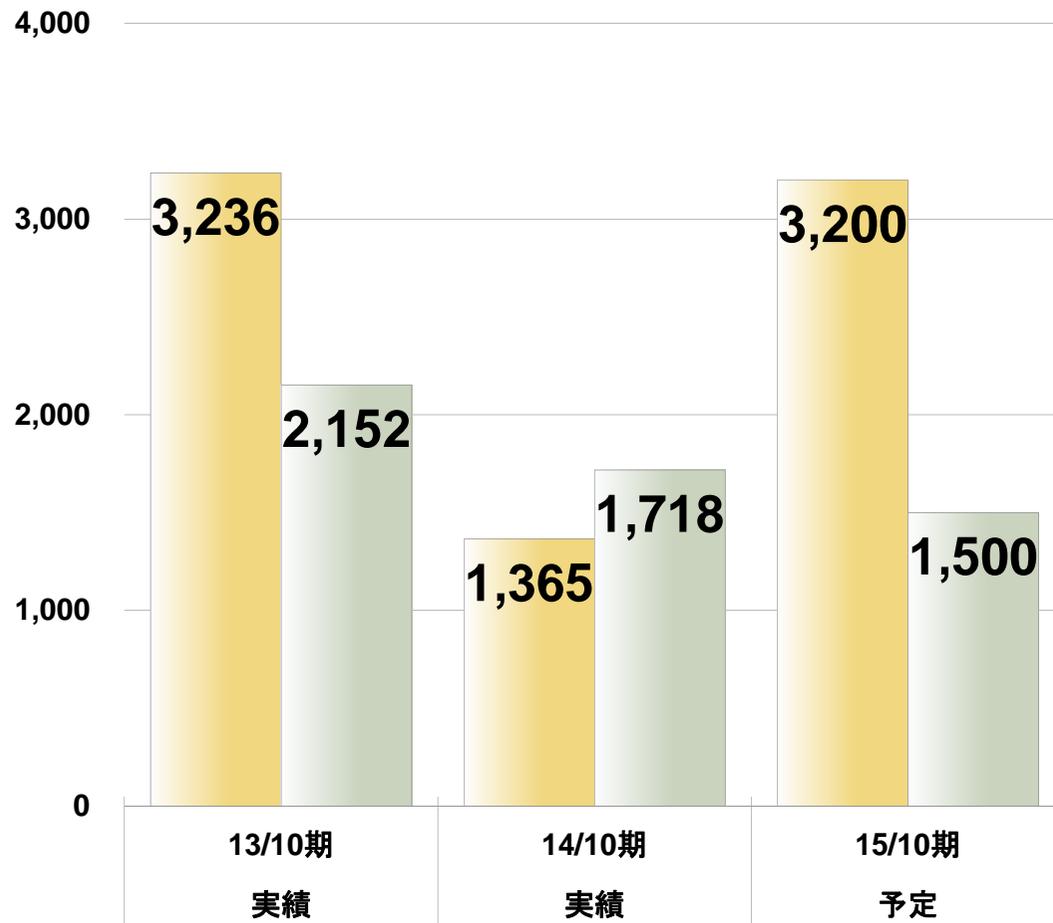


設備投資、減価償却費、研究開発費

設備投資、減価償却費

■ 設備投資
■ 減価償却費

(単位:百万円)

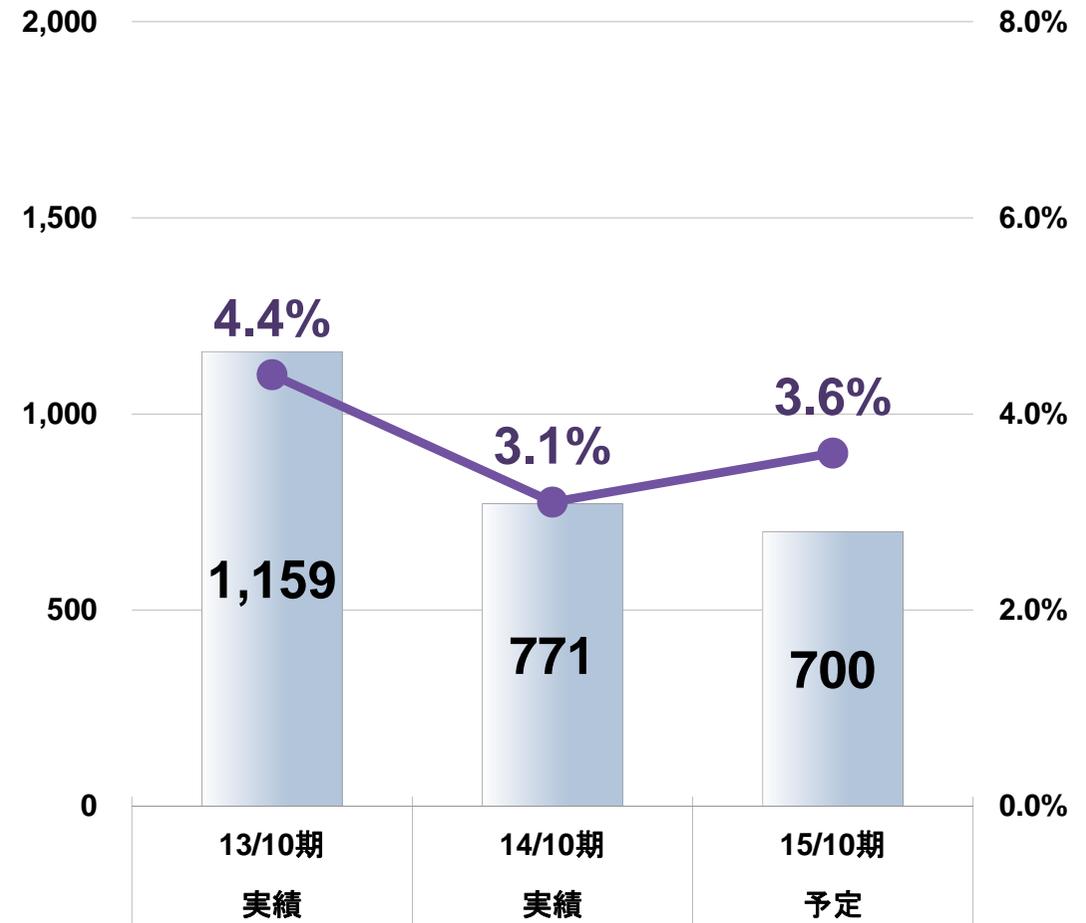


研究開発費

■ 研究開発費
● 対売上比率

(単位:百万円)

(単位:%)

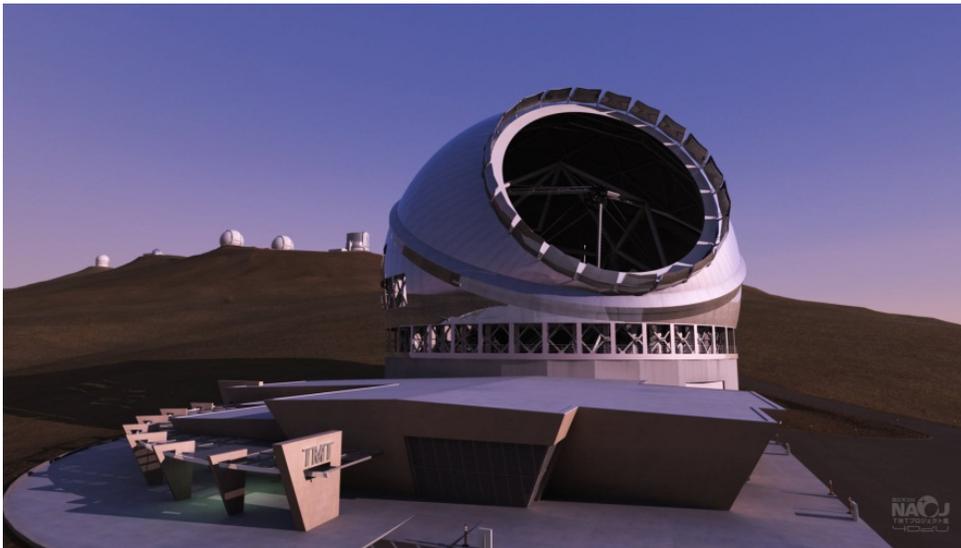


トピックス：TMT着工

- ◆ 国立天文台などが推進する超大型天体望遠鏡「Thirty Meter Telescope (TMT)」起工式開催
- ◆ 直径30mの主鏡材料(極低膨張ガラスセラミックス)一部材料納品、増産投資で2015年より供給能力倍増へ

Thirty Meter Telescope (TMT)

(ハワイ、マウナケア山。2022年度観測開始予定)



国立天文台TMT推進室ホームページより

分割鏡素材(当社極低膨張ガラスセラミックス)



OHARA

【ご参考】セグメント利益遡及修正値

